

5月例会 * 日程変更

5月24日(土)

夜
7
時
より

『アニメ親鸞さま』

ビデオ鑑賞会



親鸞さま

小林桂樹

法然上人

石田太郎

恵信尼さま

島本須美

ナレーション

竹下景子

١٠٠

この度、親鸞聖人の90年に渡る生涯を、人々との出会いや別れ、波乱に富んだ出来事を通して描き出されたアニメが完成されました。

日本昔話調で、子供から大人まで親しめる壮大な人間ドラマとしてのアニメです。

仏社の5月例会はその鑑賞会を行います。是非とも皆様ご参加下さい。

仏教用語の解説⑧

《生 死》

一般用語：せいし
仏教用語：しょうじ

「生死」は、一般用語としては「せいし」と読み、仏教用語では「しようじ」と読みます。

く、これは読み方が違うだけではない。その意味合いが異なることに注目して下さい。

は、「生」と「死」を別ものとして考えます。

つまり、「生まれること」はめでたいことであり、「死ぬこと」は不幸なこととして、「生」と

「死」を対照的なものとしてとらえる言葉です。

けれども仏教では、生まれたも

のは必ず死に至るとして、「生」と「死」は紙の表裏のように一体のものとしてとらえます。

つまり「生死（しょうじ）」とは、生まれ変わりに変わってしまふことがない私達の迷いの

「生まれること」がめでたく、
「死ぬこと」が不幸ではなく、主

死は一体のものとしての迷いの姿なのです。

この「生死」は輪廻とも訳され

ますが、これまで無限に迷いの「生死」を繰り返してきているのが私達なのです。

の経典には、この生死の迷いを夜
か、闇にたとえて「生死の長夜」と
苦しみの限りのないことを海

にたとえて「生死の大海」など
示されます。

返しの輪から離脱して、絶対の安らぎの境地に到達することを目的とします。

この安らぎの世界がさとの世界であり、涅槃と呼ばれる世界なのです。

○安穩の世界へ

「眠れない人には夜は長く、疲れた人には一里の道は遠い。正しい真理を知らない愚かな者どもに」

は、生死の道のりは長い」と示されます。

今私達は幸いにも、阿弥陀様の

ご本願により、生死の長い道のりから離脱するすべを頂くことができました。

この上での私達の人生は、決して眠れぬ長い夜ではなく、行き



5&春

には、この子
場していま

の旅路な
です。



菊坊

アニメ
供達も登
す。



アニメには、この子供達も登場しています。

※前号からのつづき

○食べ物に

「いのち」をみる

以前、「この世に『食べ物』というものはなく、全てが『生き物』なんだ」ということを、お話ししました。（会報41号）

私達が「食べ物」といつてるのは、人間の都合で勝手にそう呼んでいるだけであり、どれもその一つひとつが皆、自分の「いのち」を一生懸命に生きている、「生き物」なのです。

牛も豚も魚も、
野菜も果物も、み
んな我が命として
育ててきました。

それを私達は、「食べ物」と呼ん



で、挙げ句の果てに、飽食にならされた私達は「これは美味しい」と過当に値打ちを決めつけているのです。さらに、ええとしてそのブランドだけを一人歩きさせて、値打ちを決め込んでいるのです。吉兆の牛肉みそ漬けが、但馬牛ではないと気づいた人があつたでしょう。か。多分みんな「やはり吉兆の但馬牛は美味しい」と舌鼓を打っていたはず。それは、但馬牛という牛に値打ちを感じているのではなく、単に「吉兆の但馬牛」というブランドに値打ちを感じていただけなのです。

現在の私達は、ものの本質を見失い、名前やかたちに踊らされていることが多いのではないのでしょうか。吉兆はそんな私達につけこんで、偽装を働き不当な利益を得ようとしたのである。そのことは決して許されませんが、やはりその不正をさせるよな土壌は私達自身が作つ



法然上人



てきたのではないでしょう
か。

○そらごとの娑婆世界

現在、日本が自分の国で
賄っている食料の率、いわ
ゆる食料自給率はわずか3
9%です。

この状態の中で、食料が
あふれ、多くを無駄にして
いるのです。

実に危なかしい中で、食
料はあふれかえっていて、当
然と錯覚しているのです。

偽装を働いた食品会社は
厳しく弾じられなければな
りませんが、同時に私達は
今、もっと大事なことに気
付き、互いに身を正す必要
があります。そのことの方
が、もっと大きな問題なの
ではないでしょうか。

私たちは、偽りを偽りと
自覚し、偽りを恥ずかしい
と思わない間は、救われよ
うがありませんが、昨年、
「偽」という字が選ばれた
ことは、その自覚が少し芽
生え始めてきたの
ではないかと、少
ちもあります。

親鸞聖人は、歎
異抄の中で、この



娑婆世界は、絶対に間違いないものは無く、すべてが「そらごと、たわごと」だと仰っています。

○「懺愧」と「報恩」

けれども大事なことは、「そらごと、たわごと」の世だから仕方がないとは仰っておられないことです。

「そらごと、たわごと」の私達でありながら、ご本願によって救われていくのだと気が付かせて頂くなら、そこには「お恥ずかしい」「懺愧」の気持ちが生じ、「ありがたし」「報恩」の心が生じるのだと示されるのです。

この「懺愧」と「報恩」の心こそが、私達に少しでも「偽り」の世界をなくさせようとさせるのです。

今私達にとって大切なのは、仏教が教える「懺愧」と「報恩」の心であり、勿体ないの心を養い、ものの本質を正しく見る眼を養うことが、ひいては企業の不正を止めることにも繋がるのではないのでしょうか。

仏壯総会
住職法話
より



仏
壯
総
会

住職法話

より

